

F-15 理論食料費の試算について
お茶大家政 ○横田京 伊藤秋子

目的 昭和46年5月に「昭和50年を目途とした栄養基準量及び食糧構成基準」が発表されたので、これに基づいて理論食料費を算出し、その結果を吟味する。

方法 ①資料①栄養審議会、「昭和50年を目途とした栄養基準量及び食糧構成基準について（答申）」 ②厚生省「国民栄養の現状」、③総理府統計局、「家計調査年報」

2 所要食糧構成の各品目に対し、総理府統計局調査の平均価格を用いて、原料としての食料費および / Cal 当りの価格を算出する (A)。

3 国民栄養調査による摂取食糧構成の各品目に対し、上述の平均価格を用いて原料としての食料費および / Cal 当りの価格を算出する (B)。

4 国民栄養調査による摂取した食料の / Cal 当り価格（これは加工食品をも含めたもの）(C) と (B) との比率を出す。

5 $A \times \frac{C}{B}$ を理論食料費 (/ Cal 当りの価格) とする。

結果 ①新基準による昭和43年の理論食料費の単価は14.3銭。昭和40年の単価は10.6銭

2 昭和40年の / Cal 当り食料費は、新基準によるものと旧基準によるものより、やや高額となる。

3 昭和40年の / Cal 当り食料費を、単に消費省物価食料指数で43年の価格に換算したものよりも、新たに計算した価格の方がやや高額となる。